

ベルギヤム國王ニ謁見セシ時、世ヲ記載シ以テ  
拜啓ス

千八百七十二年三月、余貴拉特費府ヨリ龍動府へ到  
著セシ時、ベルギヤム國王ノ宮内卿ヨリ書翰ヲ持タリ曰ク、余ガ  
歐州ニ赴クノ途中ブルセル府ニ於テ該國王余ヲ見シテ要ス  
ト因テ謁見シ得レハ十二月十日ナリキ、暫時挨拶ノ語テ、後  
王ノ談話日本ノコトニ及ベリ、尋同多端在リ日本ノ国体上且特別ニ  
通商ニ方テ多キニ居レリ、因テ<sup>余</sup>余ガ明ノ及テ所ヲ叩テ  
以テ吾ク之ニ應答セリ、王又夕本年東京ニ催セラル、内國情  
况會ノコトヲ問ヒ且ツ外國ノ出品志願旨ニ於テハ之ニ陳列スル  
ノ免許ヲ得ル能ハザリシ<sup>遠</sup>憾トスルノ趣ヲ語レリ、抑モ彼ノ祈  
望スル所ニ於テハ殊更ニ日本トベルギヤムノ間ニ直通商互  
易ヲ開カンコトアリ夫レベルギヤムノ物産ニ於テハ方今ニモ  
年々日本ニ輸入スルコト多ク、彼亦之ヲ知レリ然レモ  
其輸出品ニ於テハ故テ日耳曼又ハ阿蘭陀ヲ經テ出ルモノ<sup>シテ</sup>  
其直通商ニテラザラ憾ム故ニ如此輸出ニ之ヲ止メ只テ更  
ニ兩國ノ間ニ於テ直通商ヲ開カンニ是レ該國ノ為メ至善ノ  
コト王陛下ハ欲リニ之ヲ希望セリ且ツ此方法ニ於テハ日本及  
ベルギヤム兩國ノ間ニ於テ大ニ所要ナルコトナリ之ヲ勸奨  
センコト彼ハ左ノ見テ陳説シタリ  
○日本政府ヨリハ價ニシテ辨ズベキ一個ノ家屋ヲ東京ニ建  
築シ其家屋<sup>ノ價</sup>以テ外國ノ諸發明者又ハ製造者ニ貸貸、  
スルモノトスベシ抑モ其他區ノ貸方ニ於テハ三月又ハ其  
餘ヲ以テ一期限外ニ為シ區地幾方メートル<sup>ハ</sup>或ハ幾方尺ヲ以テ  
其價ヲ定メ加之低價ヲ以テ觀客ノ入戸科ヲ收メンニ一度  
建築アリテヨリ以來ハ益々盛ナルモノトナルベシ而シテ該家  
屋へ物品ヲ陳列セン者メ區地ヲ要スル者ハ東京又ハ横浜ニ  
在ル自國ノ領事ニ經テ以テ之ヲ請求スルコト<sup>ハ</sup>且ツ其諸事  
ニ於テハ發明者又ハ製造者タルノ趣旨ヲ該領事ヨリ保證  
スルヲ要スベシ也此ニテ諸商賣、卸賣、者又ハ零賣、高賣  
ノ者ニハ更ニ物品ヲ許サズシテ以テ通常ノ賣店ヨリ少シク

佳ナル展覽場ト爲シ而シテ其會場ニ於テハ出品者又ハ  
觀客ノ爲メニ年中之ヲ開場スベシ且ツ該家屋ニ於テハ極  
白ニシテ裝飾ナキ一長棟ニシテ足レリト如右ニシテ其在リ  
施行テランニハ歐羅巴又ハ亞米利加ニ於ケル諸發明者又ハ諸  
製造者ニ於テ新ナル發明抑アルニ於テハ速ニ之ヲ東京ニ於  
テ建築サレタル展覽場ニ陳列セシメテ諸君ニ至ラシムニ於テ  
王陛下ハ更ニ之ヲ疑ハズト云ヘリ蓋シ諸君此名女改智造者  
ノ氣ニニ如此發明ヲ爲スヤ庶ク其者ヲ傳ヘ以テ其製造  
物ヲシテ大ニ利益ヲ生ゼシメント是レ<sup>（無事）</sup> 渴望スル所ナレバ  
ナリ

實ニ此方法ノ行ハレシニハ歐羅巴又ハ亞米利加ニ於テ新  
發明物アル毎ニ其事ノ歐羅巴ニ於テ<sup>（知ラル）</sup> 時ト殆ンド同時ニ  
日本ニ於テモ之ヲ知ルニ至ラシ夫レ日本ニ於テハ歐羅巴又ハ  
亞米利加ニ於テ觀シテ觀查セシ人ノ外ニ於テハ如此新發明  
物ノ識ヲ用ク等罕ナルベシ故ニ該展覽場ヲ起シ各回ノ  
進物ヲ衆觀ニ供セシニハ日本ノ爲メ利益タルベシ又々就  
中下等人民ノ爲メニ最モ必要タルベシ

諸出品者ニ於テハ該製造品又ハ發明物ヲ以テ相應ノ時  
間陳列セシ後ニ其等ノ物品ヲ以テ之ヲ東京ノ博物館ニ寄  
進スルノ心ヲモ主スルニ至ラシ蓋シ之ヲ歐羅巴ニ送還センニハ  
手數且費用モサカラス之ニ如クニ該物品ヲ以テ日本人ノ愛  
用ヲ得ルニ至ラシテ之ヲ要スルノ爲メニ之ヲ寄進スルニ至ルベ  
シ該方法ニ於テハ歐羅巴ノ諸製造者又該發明者ノ爲メニ於  
テモ其利タシ蓋シタル明瞭タルニ該展覽場家屋ニ於テハ絶  
此時ナリ最モ珍奇ナル發明物又製造品之ニ充滿スベシ  
實ニ即今歐羅巴又ハ亞米利加ニ於ケル許多ノ製造者又  
發明者ニ於テハ彼等ノ製造品且該物品ヲ以テ賣却ツ大ニ且  
美評ヲ擴張セン者メ日本ニ於テモ之ヲ知ラシトニ至ラシテ  
僅ク希覓スルナリ然レバ今ヤ全ク其事ナシ困テ王陛下ハ  
彼ノ見込ノ如ク日本ニ於テ之ヲ施行テラシムニハ快然之ヲ  
輔翼セ<sup>（其）</sup> 其成功ヲ果スニ於テハ慶モ疑フ容レズト云ヘ

右說能ノ了ニ臨シ王陛下ハ彼ノ爲メニ右ニ趣者ヲ日本  
政府ニ在ル要路ノ官員へ傳達センニハ幸然ノ至ト

554 B

之ヲ第一係託セカシキリ然ルニ今般主日中ニ既ヲ看スルニ由  
リ官年右ノ説ヲ記載シ以テ閣下ノ照準ニ供ス誠惶  
敬具

千八百七十七年二月

フランス、コンリーフ、オウエン

日本天皇陛下ノ

米國特使有事務副總裁

陸軍中將西郷從三閣下